

-Celebrating the 100th anniversary of his birth-

# Kumi Sugai

-the eternal challenger

あくなき挑戦者

# 菅井 汲

生誕100年記念

2019.5.25 SAT  
→ 7.21 SUN

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)  
※会期中、展示替えがあります

休館日：月曜日(但し7月15日(月・祝)は開館し、翌7月16日(火)を休館)  
入館料：一般1,000円、高・大学生500円、中学生以下無料

※障がい者手帳などをお持ちの方は半額。介添えの方は1名無料。※20名以上の団体は各200円引き。

【タクシー来館特典】タクシーでご来館の方、タクシー1台につき1名入館無料  
※当館ご入場の際に当日のタクシー領収書を受付にご提示ください。

主催：海の見える杜美術館  
後援：広島県教育委員会、廿日市市教育委員会

海の見える杜美術館  
learn from nature and pursue art & culture

図版：菅井汲《自画像》(一部)

# 菅井 汲

—あくなき挑戦者—

生誕100年記念

海の見える杜美術館では画家・菅井汲の生誕100年を記念して、「生誕100年 菅井汲—あくなき挑戦者—」展を開催します。

菅井汲(1919–1996)は、1940年代から1990年代にかけて活動しました。戦前から戦後にかけては商業デザイナーとして活動し、その一方で日本画家中村貞以に師事して日本画を学びました。転機が訪れたのは1952年のことで、この年単身フランスに渡ります。それ以降パリを拠点に主に版画制作を中心に活躍し、数々の国際展で受賞するなど成功をおさめました。本展覧会では、渡仏後から晩年までの約40年間に制作された当館所蔵の版画コレクションを展示し、作風の変遷を辿ります。

渡仏当初の彼は大胆で力強い象形文字のような形態の作品を手がけていましたが、1960年代になると作風は一変し、明快な色彩と形態からなるダイナミックな抽象表現に転じます。さらに1970年代に入ると、ほとんど円と直線で構成される幾何学的モチーフを制作するようになり、1980年代から晩年までは自らのイニシャルである「S」の字を象った作品を描き続けました。

菅井はいったん気に入ったかたちを見つけると、その図形にこだわり、組み合わせを変えつつ描き続けました。彼は同じパターンを繰り返すという行為に画家としての個性を見いだしたのです。その一方で、「新しい美術を生み出したい」という思いから、何度も作風を変えていったところに、菅井の挑戦者としての一面を見ることが出来ます。「1億人の日本人からはみ出した存在でありたい」という強い意志のもと、その生涯を通じて、常に獨創性を求め、新たな絵画に挑み続けた菅井汲の世界をご覧ください。

## 菅井汲 略歴

- 1919年 兵庫県神戸市に生まれる
- 1937年 阪急電鉄広告宣伝課で商業デザインを担当する
- 1952年 フランスに渡る
- 1954年 パリのクラヴェン画廊と契約し、初の個展を開催する
- 1955年 リトグラフの制作をはじめ
- 1957年 第1回東京国際版画ビエンナーレ展にリトグラフを出品
- 1959年 第3回リュブリアナ国際版画ビエンナーレ出品、ザグレブ市近代美術館賞受賞
- 1960年 第2回東京国際版画ビエンナーレ展出品、東京国立近代美術館賞受賞
- 1962年 第31回ヴェネツィア・ビエンナーレ出品、デイヴィッド・E.ブライト基金賞受賞
- 1965年 第8回サンパウロビエンナーレ出品、外国作家最優秀賞受賞
- 1968年 東京国立近代美術館から依頼され壁画を制作
- 1969年 京都国立近代美術館で「菅井汲」展を開催する
- 1976年 「菅井汲全国展」を開催する
- 1983年 国内で初の回顧展を開催する(西武美術館等を巡回)
- 1996年 神戸にて死去(77歳)

Kumi Sugai —the eternal challenger

## —Celebrating the 100th anniversary of his birth—

### イベント情報

#### 当館学芸員によるギャラリートーク

5月25日(土)、6月29日(土)、7月20日(土) 13:30~(30分程度)

[会場] 海の見える杜美術館 展示室

[参加費] 無料(ただし、入館料は必要です)

◎事前申し込み不要

### 同時開催

#### 香水瓶展示室

海の見える杜美術館が、長年にわたり収集および調査をしてみました、香水瓶コレクションより厳選した香水瓶を、いつでもご覧いただけます。



スキャパレリ社、香水瓶《太陽王》  
デザイン：サルヴァドール・ダリ 1945年

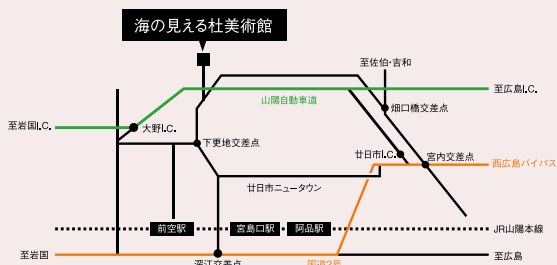
#### 竹内栖鳳展示室 「棲鳳」時代の栖鳳

竹内栖鳳は、師の幸野椋嶺からはじめ「棲鳳」という画号を与えられました。瑞鳥である鳳が棲むという意味です。

彼は1900年(明治33)の渡欧の際に目にしたヨーロッパの絵画に感化され、帰国後にその技法を取り入れた近代的な日本画の創出に取り組みます。そして渡欧の途中で、西を旅したことにちなんでか、「栖鳳」の署名を使い始めるのです。今回の展示では、渡欧する前の「棲鳳」を名乗っていたところに、彼が明治の京都で培った絵画をご覧いただけます。



《春秋屏風》1889年(明治22)頃



#### ■アクセス情報

山陽本線「宮島駅」または  
広島電鉄「広島宮島駅」からタクシーで約10分  
山陽自動車道「大野、C.」から車で約10分

#### ■タクシー来館特典

タクシーでご来館の方、タクシー1台につき1名入館無料。  
※当館ご入場の際に当日のタクシー領収書を  
受付にご掲示ください。

海の見える杜美術館  
learn from nature and pursue art & culture

〒739-0481 広島県廿日市市大野亀ヶ岡10701

Tel: 0829-56-3221 E-mail: info@umam.jp http://www.umam.jp